



インターネットでの情報提供	
提供予定日	9月1日

平成22年8月31日 県政記者クラブ配布資料			
担当課	担当	担当者	電話番号
地域振興課	まちづくり支援担当	山田 恭	内線2435

「ふるさと応援チーム」の創設と派遣について (郡上市明宝地区)

県では、平成19年に、ぎふまちづくり応援プランを策定し、これまでに「まちづくり支援チーム」を6地域に派遣し、景観整備やイベント開催等の支援を行ったことにより、交流人口の増加や特産品開発など、「地域の元気」を生み出しました。

この度、これまでの「まちづくり支援チーム」の経験を活かし、主に過疎地域を対象に、地域課題を解決し、「ふるさとの元気づくり」を支援するため、県職員により構成する「ふるさと応援チーム」を創設し、その第1号として、郡上市明宝地区に派遣することとなりましたのでお知らせします。

記

1 ふるさと応援チームについて

(1) 役割

- ・飛騨市宮川町種蔵地区における「まちづくり支援チーム」派遣による成果を県内各地に広げ、高齢化率の向上、人口減少等により活気を失いつつある過疎地域の元気づくり（地域住民の意欲を高め、人を呼び込み、経済的循環を生み出す）や地域における生活の継続、集落の維持のための住民活動を支援するため、市町村からの要請に基づき、県職員による専門チームを編成し、現地に派遣するもの。

(別紙1：飛騨市宮川町種蔵地区の成果参照)

(2) 目的

- ①個々の住民活動(地域力)を引き出し、地域資源の掘り起こしによる連携と協働を促す(意欲を高める)
- ②他地域から人を呼び込む観光交流、地域資源を活かした特産品開発、拠点施設を活かした販売促進(人を呼び込み、経済的循環を生み出す)
- ③過疎地域の生活を維持する仕組みづくり(生活の継続、集落の維持)

2 明宝地区への「ふるさと応援チーム」の派遣について

(1) 支援内容

- ・都市住民との交流を行う住民活動、移住定住の推進、特産品開発(ブランド化)、観光交流活動、農業振興など、それぞれの活動を連携させることにより、人口流出抑制(集落機能の維持)と地域経済の振興(地域活性化:経済的循環)を図り、持続可能な地域となるよう支援する。

① 交流人口の増加から移住定住へ

- ・ふるさと栃尾里山倶楽部の活動支援（別紙2参照）
- ・地域資源を活かした観光・グリーンツーリズム（農業体験）の強化 など

② 地域資源を活用した地域経済活動

- ・鶏ちゃんを中心とした地域ブランドの確立
- ・耕作放棄地等を活用した農業振興
- ・小水力発電などクリーンエネルギーの活用検討
- ・間伐材を活用した商品化の検討 など

(2) 活動期間

平成22年9月から平成25年3月（平成24年度末）（予定）

(3) ふるさと応援チーム構成員

- ・関連する部局の課長補佐以下の若手職員7名で構成する。

所 属	担 当
総合企画部観光交流推進局地域振興課	移住・定住担当
総合企画部観光交流推進局 観光・ブランド振興課	ブランド戦略担当
商工労働部商工政策課	新産業・新エネルギー担当
農政部農業振興課	グリーンツーリズム担当
林政部林政課	森林づくり担当
郡上土木事務所	道路維持担当
中濃事務所振興課	振興・防災担当

3 今後の「支援チーム」について

- ・「まちづくり支援チーム」は現在3地区に派遣しているが、今後は、中山道の宿場町など、主に中心部のまちづくりに重点を置き、都市整備、中心市街地活性化及び観光交流事業等との連携により、まちの景観整備やにぎわいづくりに関する地域活動を支援する。
- ・「ふるさと応援チーム」及び「まちづくり支援チーム」とも、これまでの成果や課題を検証しつつ、地域が抱える課題の解決を支援するため、市町村からの要請に応じ、順次編成・派遣する。

<参 考>

○明宝地区で実施する県事業(平成22年度)

・地域振興チャレンジ事業(地域振興課)

緊急雇用創出事業を活用し、過疎地域振興のための事業(特産品開発、観光振興など)を県が募集・選定し委託(10事業)。明宝地区では、明宝温泉湯星館が受託している。

・過疎地域支援大学連携モデル事業(地域振興課)

緊急雇用創出事業臨時特例基金を活用し、大学が失業者を「地域がんばり隊員」として雇用し、地域に駐在させ、農家の手伝い、集落の維持管理、交流事業へ参加などを通じ、地域の「人手」として若者を受け入れる際の手法や人材育成などについての調査研究。岐阜経済大学に委託し、郡上市と飛騨市に駐在させる。

・チャレンジ25地域づくり事業(商工政策課)

明宝二間手にある古民家「源右衛門(げんねもん)」に太陽光発電パネルを設置し、クリーンエネルギーを活用した過疎地域振興モデルの実証実験を実施する。

○ぎふまちづくり応援プラン

県が地域のまちづくりを応援するための指針として平成19年3月策定。まちづくり3原則として「自立・連携・持続」をキーワードとし、地域住民が自らの手で3原則に基づく活動が可能となるよう支援することとしたもの。県は、市町村とともに①意欲喚起、②集中支援、③オーダーメイド、④現場主義、⑤継続的を基本姿勢とし、その手段として「まちづくり支援チーム派遣」などにより、地域のまちづくりを支援することとしているもの。

地域振興課内にまちづくり総合窓口を設置し、関係機関との連携及び各種相談や問い合わせに応じている。

○まちづくり支援チーム

まちづくり支援チームは、地域住民、NPOなどが市町村と連携し目指すべき方向が共有されている地域について、市町村からの要請に基づき若手職員をチームとして派遣するもの。地域の課題に応じ、各部局横断的に組織し、まちづくりの協議の場や活動に参加するとともに、地域課題の解決のための各機関との調整、資金調達のための助言(集中支援)など、県職員としての専門性を活かした活動を行っている。また、派遣終了後においても「元気なふるさと」と認定し、住民主体の活動を支援していくこととしている。

*まちづくり支援チーム派遣地域(累計6地区)

- ・揖斐川町谷汲門前地区(H19.6～継続中)
- ・土岐市駄知地区(H20.5～継続中)
- ・御嵩町御嶽宿地区(H20.9～継続中)
- ・飛騨市宮川町種蔵地区(H19.6～H22.3)派遣終了
- ・郡上市石徹白地区(H19.9～H21.3)派遣終了
- ・下呂市馬瀬地区(H20.5～H22.3)派遣終了

*なお、各地域での活動状況については、次のURL「まちづくり活動日記」にて、ブログ形式で掲載中。

<http://www.pref.gifu.lg.jp/pref/s11161/machi/team/nikki-index.html>

■飛騨市宮川町種蔵地区の成果

別紙 1

○飛騨市宮川町種蔵地区は、11世帯22人（高齢化率約70%）が暮らす、富山県境に近い条件不利地域。

○県では、まちづくり支援チームを派遣し、観光交流、農業振興部門が中心となって、宿の運営アドバイス、棚田保全、景観維持、誘客宣伝、案内看板設置などについて支援

*派遣期間：平成19年6月～22年3月（2年9か月）

⇒ 派遣目的：種蔵の住民活動を広く知ってもらい、種蔵における交流人口を増やすための支援

○住民が、「(株)たねくら」を設立（平成20年9月）し、「板倉の宿 種蔵」の指定管理を受託（飛騨市からの指定管理料：350万円（H22））。



飛騨市から指定管理を受けている「板倉の宿種蔵」

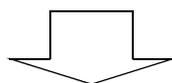


賑わいを見せる「新そば祭り」（毎年11月開催）

○施設は平成21年4月開設、12月まで営業し、290人が宿泊、昼食のみの来訪者は300人を超える。

○都会からの来訪者が増え、交流することで「生き甲斐ができた」「地域に活気が出てきた」「自分が住む地域に誇りが持てるようになった」など、地域住民の活力向上や自信の回復に繋がる。

○これらの取組が「地域の元気づくりに繋がっている」として、「平成21年度地域づくり総務大臣表彰」を受賞。



条件不利地域の地域づくりに対する県の役割

高齢化率が高い条件不利地域に暮らす人が抱きがちな思い（何をやっても遅い、ダメだというあきらめ）を、下記①～④にあるようなプラスに変えるための「お手伝い」。

- ①交流人口の増加による「今住んでいる地域の再評価」（人に評価される喜び）
- ②景観を守ろう、きれいな地域を見てもらおうという「意識の高まり」（生き甲斐）
- ③来る人をもてなそう、特産品をつくろうという「意欲の高まり」（働き甲斐）
- ④種蔵に住むことが「誇りに思えてきた」（自信の回復）

条件不利地域においては、地域活力の向上とふるさとの誇りの再生につながる、観光交流や農業振興、景観保全、移住定住、集落・生活支援に力点を置いた「ふるさと応援チーム」を創設し、条件不利地域（過疎地域）の課題解決に取り組むこととした。

■明宝地区の概要

別紙 2

- ・明宝地区は、美濃地方の北端に位置し、スキーやコンサート会場としても有名な「めいほうスキー場」や温泉施設「湯星館」などの観光施設を擁するほか、「明宝ハム」や「明宝トマトケチャップ」などの特産品づくりにも力を入れてきた地域である。
- ・しかしながら、近年は東海北陸自動車道等の整備が進み、地区を通る国道472号線（通称：せせらぎ街道）の通行量が減少したことにより、地区に立ち寄る観光客がこの10年で半減している。
- ・また、地区の高齢化、人口流出による過疎化が進んでいるため、集落としての活気が失われつつある。

◆人口の推移

（単位：人）

	昭和60年		平成7年		平成17年	
	人口		人口	S60比	人口	S60比
郡上市全体	52,125		50,809	▲2.5%	47,495	▲8.9%
明宝地区	2,266		2,153	▲5.0%	2,023	▲10.7%

◆高齢化率の推移

（単位：人）

	昭和60年		平成7年		平成17年	
	65歳以上人口	率	65歳以上人口	率	65歳以上人口	率
郡上市全体	8,360	16.0%	11,676	23.0%	14,236	30.0%
明宝地区	412	18.2%	591	27.5%	661	32.7%

* 資料 明宝地区、市全体の人口（国勢調査）

* 明宝地区は旧明宝村内集落（大谷、小川、奥住、寒水、気良、畑佐、二間手）を指す

* 郡上市は旧郡上郡町村の合併により平成16年3月誕生。平成7年以前のデータは旧町村の人口を合算。

◆明宝地区の主な観光地の入込客数

（単位：人）

	平成12年	平成16年		平成21年	
	入込客数	入込客数	H12比	入込客数	H12比
めいほうスキー場	296,340	270,660	▲8.7%	236,896	▲20.0%
明宝温泉湯星館	214,778	166,115	▲22.7%	113,991	▲46.9%
道の駅「明宝」	685,000	352,000	▲48.6%	240,500	▲64.9%
明宝地区全体	1,272,418	851,075	▲33.1%	639,907	▲49.7%

* 資料 岐阜県観光レクリエーション動態調査

◆飛騨美濃有料道路（せせらぎ街道）の通行量

（単位：台）

	平成10年度	平成15年度		平成20年度	
	通行台数	通行台数	H10比	通行台数	H10比
飛騨美濃有料道路	1,149,444	623,304	▲45.8%	438,925	▲61.8%

* 資料 岐阜県道路公社調べ

* <参考> 平成12年10月 東海北陸自動車道 庄川IC ～飛騨清見IC 開通
 平成16年11月 中部縦貫自動車道 飛騨清見IC～高山西IC 開通
 平成19年 9月 中部縦貫自動車道 高山西IC ～高山IC 開通

○活動団体

◆ふるさと栃尾里山倶楽部

明宝・二間手地区の住民が集い、地区にある古民家の「源右衛門（げんねもん）」を拠点に、農村交流などの活動を実施。地元住民と都市住民と一緒に考え活動する参加型里山づくり「ふるさと栃尾里人塾」を運営し、新たな交流・移住の集落モデルを作りたいと考えている。

*平成21年5月設立、置田憲治代表
会員数18人



*源右衛門

築100年以上の古民家を「ふるさと栃尾里山倶楽部」が借り受け、都市住民との交流施設「里山の宿源右衛門」として平成21年から運営。

県補助金を活用し、住民自ら改修工事を行うなど、地域活動の拠点として機能している。



○特産品

◆めいほう鶏ちゃん（めいほう鶏ちゃん研究会）

主に奥美濃地方や飛騨地方で親しまれている鶏のモモ肉やホルモンを味噌などで味付けし、キャベツなどの野菜と一緒に炒める鉄板料理。

B1グルメに登録されるなど全国に売り出し中。

*めいほう鶏ちゃん研究会（郡上市商工会明宝支部）

「めいほう鶏ちゃん」を売り出すために地元飲食店・民宿等で結成された組織。「鶏ちゃんの里マップ」作成やイベントへの出店で鶏ちゃんのPR活動を実施。

「B級ご当地グルメでまちおこし団体協議会（通称：愛Bリーグ）」準会員。

